

「しずない二十軒道路桜並木」を活用した環境教育プロジェクトの実践  
北海道静内農業高等学校 食品科学科2年 館山 一樹 反保 大地  
北海道静内農業高等学校 教諭 五十嵐 直樹  
日高南部森林管理署 流域管理調整官 山本 謙也

### 1. 課題を取り上げた背景

本校では、平成20年度より北海道教育委員会から「環境教育プロジェクト校」の指定を受けている。環境保全と持続可能な社会の実現を目指す教育活動を行うに当たり、この活動における中心的な学習教材として、本校に隣接する北海道遺産「しずない二十間道路桜並木」を取り上げた。樹齢100年近い老木が多く、開花のシーズンは多くの観光客が訪れるが、その他の時期は閑散としており現状を把握しているのは、一部に限られている。新ひだか町役場やしずないさくらの会が中心となって、保全活動に取り組んでいるが、樹木の実態を把握した調査から10年以上経過していた。そこで、生徒全員で桜並木の樹木調査に取り組み、その結果をまとめて発信する活動を通じて、

- 1 生徒が環境問題を知り、環境を考え行動する態度を育成する。
- 2 地域の自然を学び、その有効活用と保全に取り組む意欲を高める。
- 3 地域の方々と一緒に環境保全活動に取り組み、地域社会の振興に貢献するとともに産業人としての資質を養う。

ことを達成できると考え、本実践に取り組んだ。

### 2. 取り組みの経過

主たる活動の桜並木の樹木調査については、日高南部森林管理署の全面的な指導・協力の下、進めることができた。1年目に教職員、及び生徒会執行部・農業クラブ執行部所属の生徒が、森林管理署職員を講師に招き、樹高や直径の測定方法についての講習を受けた。また、日本さくらの会認定の桜守、浅利政俊氏や写真家谷岡隆氏を招き、病気の見分け方や桜並木の歴史などの学習会を実施した。その後、新ひだか町役場より過去の調査台帳を受領した。

具体的な調査は、2、3年目に全校生徒で桜並木の樹木調査を実施した。その際、独自の測定マニュアルやワークシートを作成し、5、7、11月の3回に分けて樹木調査を実施したが、各年5月の調査では、森林管理署職

員が全校生徒を直接指導し、調査道具を使い約2,000本の樹高・直径を測定し、新しいデータを得た。

最終的には、過去のデータと比較できる「樹木カルテ」を作成し、各団体への配布や調査概要を学校ホームページへ掲載することで、情報発信する予定である。

### 3. 実行結果

樹木調査の実施については、樹木についての基礎知識がない段階から始めたが、多くの方や団体と連携できる体制を構築できたことで、予定通り樹木を調査することができた。過去のデータと比較して、桜並木の現状を知り、変化の様子を伝える「樹勢Map」を作成し、配布することまでたどり着くことができたのは収穫である。地図上に測定データの変化を表し、変化の原因や今後の予測をするにつれて、桜並木の保全活動に力を入れなければならないことに、多くの生徒が気付くことになった。その後、生徒会執行部主導の桜並木周辺での定期的な清掃ボランティア、農業クラブが中心となった桜保全のための募金活動の実施などに活動の幅が広がることになった。

また、身近でできる環境保全の実践としてチームマイナス6%運動に登録して資源節約キャンペーンや資源回収活動、また農業教育の特色を生かして、桜にちなんだ商品開発や販売、二十間道路へのコスモスの定植などを実施し、地域住民がより多く桜並木を訪れて、関心を持てる機会を増やす啓蒙活動を推進できることになったことも波及効果と考える。

### 4. 考 察

この取り組みを通じ、生徒が環境問題を身近なものとして捉え、自らの言葉で発信できる力を育むことが、ほぼ達成できたと考える。活動を通じて様々な方々と出会い、協力をいただきながら活動を進めていく協働性、活動で得た事実の理由を追究する科学性、活動内容の検討を重ねて活動の幅を広げていく社会性を身に付けた生徒の育成に取り組めた。普段、注目していなかった桜並木の木々を見つめ直す機会を通じて、改めてその貴重さに気づき、自分の言葉で桜並木の魅力を語る生徒が増えたことを実感できた。